



9/
22・23

仙台 ララガーデン長町にて 紙パックリサイクルキャンペーン実施

東日本大震災以降、なかなか東北において紙パック啓発活動を行う機会がありませんでしたが、仙台ララガーデン長町でのエコリサイクルイベント企画で、企画会社を通じてお声をかけていただき、東北の地で初めて、紙パックリサイクルキャンペーンを展開することができました。

22日は11時から16時まで、23日は10時から15時まで、ともに5時間の中で、クイズコーナーには2日間で延べ424人、紙漉きコーナーには333人が立ち寄り、牛乳パック6枚とティッシュ1箱の交換コーナーには73人の方が478枚の牛乳パックを持参してくださいました。

ララガーデンのご担当者も大変満足され、「すてきな内容のイベントをありがとうございました」とのコメントをいただきました。

今回の紙パックリサイクルキャンペーンは、全国牛乳容器環境協議会との連携事業である、「回収拠点のフォローアップ」の一環で実施したもので、昨年の三越銀座店、今年3月のセブン&アイホールディングのアリオ橋本店に続いて3回目となります。

開催に当たり、新たに製作したのぼりや背面タペストリーを展示したほか、恒例の手すきはがき作り実演コーナーや、クイズコーナーでのトイレトペーパープレゼント、また近隣の小学生が牛乳パックで作った「未来の長町」のオブジェをディスプレイしたりするなど、店内で目を引いたのか来場者が途絶えることなく、好評を得たイベントとなりました。



近隣の小学生がつくった未来の長町オブジェ

イベント情報

10月は 3R推進月間

エコリサイクルイベント

9月19日(木)～23日(月・祝) 会場/3F キッズガーデン

紙パックリサイクル交換会

紙パック6枚以上持ってきてもらえば、エコティッシュBOXと交換いたします。

9月21日(土)～23日(月・祝) 10:00～17:00

紙すき体験教室

牛乳パックを使った紙すき体験教室を実施します。エコな世界で一枚の楽紙はがきを作ろう。

9月22日(日)・23日(月・祝) 11:00～15:00

参加費 無料 定員 各日先着250名様

参加方法 直接会場にお越し下さい。*

ララガーデン長町のチラシ裏面のイベント紹介

企画内容に関するツール配布物、道具類は容環協とパック連で用意するかわりに、ララガーデン側には広報及び場所の協力をいただきました。半径 5km 範囲内の各戸に配布する B3 版二つ折りチラシの裏面に、今回のイベント情報を掲載していただきました。会場も当初は、1F の音の広場というスペースを利用する予定でしたが、企画内容が盛りだくさんであることから、さらに広い 3F のキッズコーナーを提供していただきました。そこは、4F の駐車場からエレベーターで降りればすぐ 3F ショッピングフロアというお客さんの動線が好条件の場所でもあったので、結果親子連れの方々が、次から次へと立ち寄って行かれました。

特にここ仙台でも、手すきはがき作りは関心が高く、むしろ牛乳パックリサイクルイベントがほとんど行われていないため、初めて体験する方が多く、新鮮に感じられたのかもしれませんが、子どもも親御さん方も「こんなにしっかりしたはがきができるんだ」と驚いたり、「なんか楽しいね!」と喜んだりしていたのが印象的でした。



手すきはがき作りコーナーの様子



新たに製作した、のぼりとタペストリー

今回、ララガーデン長町との仲立ちをしていただいた企画会社の方のお話では、このイベントに避難所から来られた子どもさんもいたようです。津波による被災地域はまだ手つかずの状況で、いまだ避難所生活を強いられているご家族が多い中で、紙パックリサイクルキャンペーンを通じて、子どもたちの喜ぶ顔を見ることができたのが何よりもうれしく、このキャンペーンの成功は意義深いものとなりました。

実は、被害の大きかった仙台市若林区荒浜地区に、今年「祈りの塔」として観音像が建立されたというニュースを目にしていたので、前日の 21 日にお彼岸でもあることからお参りに行ってきました。

観音像は、地元自治会などが中心となり、地元企業からの寄付などで、震災から 2 年になるのを前に建立されたそうで、今年 3 月 11 日に開眼供養が行われたということです。荒浜の象徴だった震災慰霊碑も同じ場所に移設されていて、塔の横には津波による 189 名の犠牲者の方のお名前が刻まれた慰霊碑も建てられていました。

慰霊塔のすぐ後ろは震災前までは海水浴場だった場所で、この日は雲一つなく、波も大変穏やかではありましたが、後ろを振り返ると、ここに集落があったとは想像がつかないような、生い茂った雑草の中に家の基礎だけが残された光景が広がっていました。工事車両は入っていましたが、がれきが撤去されただけでまだまだ手つかずの状況を見て、被災地支援をパック連なりに継続していきたいと心を新たにしました次第です。

